□今回都合により春鳥會は單に『みづゑ』の發行所とし、從來の會員は新に起るべき日本水彩畫會に移し申候

□日本水彩畫會は春鳥會の發展せしものにつき會員の徽章等は從前のものを用ひ可申候

□日本水彩畫會規定出來迄、從前の會員の事務は凡て小石川區關口駒井町大下藤次郎方にて取扱可申候

□規定は前春鳥會のものと大同小異につき引續き入會差支無之候

□新に出來致候水彩畫研究會は日本水彩畫會に屬し可申候

□爾後日本水彩畫會の報告は雜誌『みづゑ』廣告欄に掲載可致候

□本號の口繪は鎌倉鶴ヶ岡八幡社前にてワツトマン四ッ切大に御座候、この繪は強き日光の感じを畫きしものにて、繪具を洗ひ又は幾度も重ねるといふこともなく、出來るだけ彩料の光澤を保存すべく勉めしものに候

□讀者諸君の寄稿は次號以下追々掲出可致候

□次號にはこの程擧行されたる中學教員檢定試驗の有樣を詳細登錄可致候

□本號は講習會の記事多く候爲め例號より

は二頁を增し申候

□本號挿入の寫眞版は　第二回講習會々員の殆と全部にして、正面は五重の塔の一部に候。階段上、左の方欄に倚りたる洋服姿は松原講師、中央暗き處に顏のみ白きは大橋講師、左の方欄に手をかけて立てるは大下講師に候。猶次號には、澁溫泉に於ける講習會々員の寫眞を掲出可致候。

評

◎鉛筆畫法　中村不折著

小石川久堅町　日本葉書會

菊版クロース本綴一二〇頁六十五錢

參考の挿繪三枚、鉛筆畫手本二十二枚簡易なる器物寫生より人物風景の複雜なるもの迄順序よく說明してある透視畫法は大體及び動物人體の解剖略圖も添へてあつて鉛筆畫を學ふものには尤も有益便利なる書である

◎水彩畫法『女性と趣味』　丸山晚霞著

小石川久堅町　日本葉書會

菊判色刷クロース本綴四〇〇頁貳圓

著者が本書を公にした理由は本號の初めに載つてゐる着彩畫十二葉寫眞版木版の類が無數に挿入してある名は女性と趣味と題してあるが敢て女性に限つた事はない男女を通じての水彩畫法で美術の德、女性と美術との關係、旅行と繪畫、自然美觀論、直線と曲線、光線論、透視畫法大要、墨繪の練習法、寫生の法、水彩畫を學ふ順序、色彩論、靜物寫生法、一色畫法、色の描法、樹木及草の描法、綠の研究、水、山岳、天象、土地、人物、其他あらゆる物について一々說明し更に應用美術たる圖案意匠等に及ぼし一の加ふるものなき程繪畫に關する總てを網羅し說明又極めて親切である、排列の順序に於て多少至らぬ處あれど水彩畫法の百科全書として見るべきもの裝釘また極めて美にして淑女紳士の書架を飾るに足らん吾人は日本葉書會が多大の費用を吝まずかゝる有益なる書を續々出版せらるゝを喜ぶ

近事雜聞

▲日本水彩畫會研究所にては、去月第二日曜日より別科授業を開始し、本月第一月曜日より本科(午前)及夜學科の授業を開始する筈にて入學者續々ありといふ。

▲文部省美術展覽會は本月二十五日より、白馬會展覽會は本月中旬より、上野に於て開會せらるる筈、今度は何れも水彩畫の出品多しといふ。

▲神田三崎町の洋風挿繪研究會は、主任登張氏の非常なる熱心により、追々生徒も集まり、モデルを使用して毎週三回研究しつゝありといふ。